

## 会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第7回）
開催日時	平成29年5月22日（月）午後2時30分から午後4時00分
開催場所	田無庁舎 102会議室
出席者	（委員）有澤会長、中村副会長・小林委員・奥田委員・佐藤委員・横張委員・中林委員・金木委員・山崎委員・小島委員・川添委員・横田委員・石川委員・新出委員 （欠席）加登谷委員・後藤委員 （事務局）等々力学校運営課長・近藤・越川
議題等	1 審議委員への任命書の交付 2 自己紹介 〈議題〉 1 中学校給食について 2 その他
会議資料の名称	1 西東京市立学校給食運営審議会委員名簿 2 答申文策定に当たって 3 西東京市立中学校における給食の調理方式について（諮問）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>出席委員14名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認。前回会議録は、事前配付の資料に修正を加え、配付物のおりとするものの確認。</p> <p>1 審議委員への任命書の交付 ○事務局 4月1日付の教員の人事異動において、松村委員が他市に転出。田中委員は、学校内の事情で給食主任を外れたため、新しい委員が任命された。新委員として、副校長の代表として、柳沢中学校の加登谷委員が、中学校の給食主任の代表として、青嵐中学校の奥田委員が加わった。 新委員に対して、任命書を交付する。</p> <p style="text-align: center;">（新委員に任命書の交付）</p> <p>2 自己紹介 ○事務局 次に、事務局の人事異動を報告する。当審議会の担当の保健給食係の人事異動に伴い、新規採用の越川が配属されたので、紹介する。 委員の交代と事務局の人事異動により、全ての委員に自己紹介をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">（委員各位自己紹介）</p> <p>議題1 中学校給食について ○会長 8月31日の任期終了まで残り僅かになったため、教育委員会からの諮問に対して、答申文をまとめる時期に来ている。 本日の議題は、中学校給食となっているが、私たちがどういう諮問を受けたのかと</p>	

いうことを改めて確認することを本日の最初の作業にしたい。資料3を、改めて全委員が確認してほしい。

諮問文によれば、市立小中学校の給食の調理方式について、どのような課題があるのか、検討・協議を求められている。西東京市では、中学校給食を始めるに当たり、親子給食方式を採っているが、親子給食なりの課題もあろうし、今後の中学校での調理方式にも課題があると思うので、それぞれ整理してほしい。

本日の議論の参考とするために資料2を配付したので、説明を求める。

- 事務局 本日の進め方とともに、残りの任期の中で、どのような経過で答申文を策定していくことになるのかを、今後の会議予定と併せて報告したい。

次の会議までには、答申文のたたき台を用意して、全委員で答申文を調製してほしい。本日は、たたき台の文面を作るための、最後の議論を行ってほしい。

本日、答申内容を協議するための参考として、資料2「答申文策定に当たって」を事前送付した。この資料の構成は、諮問を受けた11月以降の会議において委員各位が確認した課題等を、過去の議事録から抜粋した部分と、或いは、この期より前の給食審議会や市教委内の給食検討委員会が策定した、親子給食に関する答申文や意見書等々の記載から抜粋したものなので、本日の出席委員は既に見聞き、資料として確認してきた内容ばかりであろうが、本日は、更に新しい課題が見つければ、これに加えるようにしてほしい。

次の会議では、答申文の案文を全委員で調製し、その様子次第で最終調製は正副会長に一任、再び全委員に配付・確認の上、最終案を完成させるように進めてほしい。

任期中の答申文の策定のためには、出席の全委員が課題に対しての発言が得られれば、より幅のあるたたき台が作文できるのではないか。

- 会長 今日、資料2の5頁のイメージ図の第2項目の答申の本旨、といわれる部分の話し合いに時間をとりたいと考えている。第1項の「はじめに」の書き出しと、第4項の「結び」の文章については、私たちが答申として何をまとめていくのかによって、おのずとまとめの文章やどうして答申に至ったのかという説明の文章になると考えたい。

前回の会議でも、いきなり一人ひとりに意見を聞かずに、小グループで議論をした後に発表したところ、大変意見が活発に出たので、今回も同様の方法で進行してはどうかと思う。

資料2を配付したが、全く新しい視点での議論によって、ここに書かれていない課題があがればより良いことだが、そればかりではなく、前回までの会議で出た課題に、別の角度での意見を加えたい、ということでもよろしいと思う。或いは、改めて見ると反論も出るかもしれない。

まずは自由に話し合った上で、グループ単位で、または個人ごとでも良いので、発表してほしい。それでは、3人1単位でグループを組んで話し合いを始めてほしい。

(小グループでの協議)

- 会長 会議を再開する。

仮に、A～Dグループと呼ぶので、順番に発表してほしい。

すべての発言が終わったら、発表内容に対して質問や意見を加えたい。

- Aグループ (仮称)第10中学校での自校式は決定事項であるが、最初にこの学校に対しての意見にはなるが、災害時にも対応できるような施設設計にできないか。将来を考えたときに、地域的のライフラインが止まっても、自家発電をしながら炊き出しを続けることができれば、自校式で使う児童・生徒だけが恩恵を受けるばかりではなく、地域の方々が災害時に励ましあったり、暖かい食事が提供される。夢のような話ではあるが、そんな施設であってほしい。

次に、主には、校舎の老朽化が要因で、長い時間の中で給食室の実態が色々と変化することになると思う。学校の建替え計画は、さまざまな要素が絡むために、更新をしてほしいという声を保護者が上げて、直ぐに5年、10年という時間が経過すると思うが、食は生きることにつながるため、少しでも早めの対処をしてほしい。その上でのことだが、今は直ぐにできなくても、10中を契機として、2校目、3校目の自校式での給食が開始できれば、本当にありがたいと思う。

現状の親子方式については、児童・生徒の人数の増減があったとしても継続してほしい。このことは、それ以前の弁当持参や外注弁当注文方式の時代に比して、大変にありがたいことだと考えるからで、しかしその裏では、親子給食に関わる栄養士や調理員には、大きな負担が加わることになるので、施設の整備や人員の配置に、少しでも配慮をすることが必要だと思う。

- Bグループ 親子給食の関係性についてだが、この制度を導入する際の決め事として、親子あわせても1,000食程度を基本とすることになっているが、現状では1校だけではあるが1,500食を調理する親校がある。施設も狭い中で、かなり厳しい現状におかれているし、調理の時間も野菜を洗うだけでも時間一杯になってしまう中で調理を続けている。

親子給食の良い点は、組み合わせを状況に応じて変更できることだと思う。現在の校舎や給食室は簡単に拡張できないのであれば、組み合わせを変更することも検討すべきなのではないか。ただし、配送時間などを考えると、人数の平均化だけでは解決しない、難しい部分でもあると思うので、検討する余地を持つ必要性について議論をした。

次に、本年度から中学校の給食の実施回数が増えることになり、これまでは食べずに帰宅していた生徒が、給食を食べられる点は保護者からも評価を受けている。しかし、親校では、中学で給食がなかった日にバイキング給食やお楽しみ給食を提供していたことが少なくなるのも心配であるという声も上がっている。

小学校側でも、お楽しみ給食の回数を減らさないような努力しつつ、中学の給食回数の確保に努めているのが現状である。

食育に関しては、良い食材、無添加の食材を使つての給食については、子供の食の安全を守る立場からも継続していきたい。小学校側のアレルギー対応だが、施設面では不十分な点を克服しながら、除去食にアレルギー食材が混入しないように、大変な努力を払っている。今後、中学校側のアレルギー対応の要望が出てきた場合には、さらに困難が伴うことになるが、現状の施設のままでは事故につながってしまう恐れが大きいと思う。

- Cグループ 自校式を選択するのか、親子方式を継続するのかということが論点と思うが、広い意味での食育を考えると自校式は魅力的である。ただし、直ぐに選択できるような状態ではないが、新校舎でのひばり中が自校式になるのであれば、条件を確認しながら、次の1校が続くことを望んでいる。

一方で、親子給食の継続が大きな路線であるのならば、歪みが出てきている部分の見直しをしながら行うべきと思う。

今後も、大小さまざまなリスクが予想されるであろうが、その全てに対応することは無理なので、ここは、明らかにわかっている要因については、必ず見直しをかけていく。近い将来の児童数の増減がはっきりとしている場合には、対処する必要はあると考えたい。

- Dグループ 現状の親子の組み合わせであるが、近い将来の不測の事態に備えては、近隣の自治体の協力や民間の老人施設や病院と連携してでも親子給食を継続することは可能であろうか。

次に、親校を複数にして、子校の負担を分散することはできないのか。

- 会長 それぞれに対する質問、意見、或いは自分のグループ意見への付け足しでもよ

いので、発言してほしい。

- 委員 Cグループの意見を聞いていて思ったことだが、(仮称)10中での給食方式は決定しており、それに伴い、自校式が望ましいという意見は必ず出るところであるが、現状では、その根拠になる材料がまとまったものがないと思う。

親子方式と自校式の差は、前の期の審議会で意見書をまとめる際にも議論を繰り返した点でもあるが、近々市内でも差が出ることになったのだから、実際にどういう違いがあって、影響が出るのかどうかを検証する必要があると思う。

自校式の中学が始まる前には、何を調べて、どう記録を取れば、実働の5年、10年でどんな差が生じてくるのかが理解できるのではないかと、それを根拠として比較する。

そうした調査事項を協議する中で、そもそも、自校式でなければできないこととは何なのか、親子でも工夫次第で近づけるものがあるのであれば、今のうちから準備をして対策を考える期間だと考えた。

- 会長 大きなテーマではあるが、次の審議会に向けての課題ということかと思う。きちんとデータを蓄積して、この次の課題に対応できるようにすべきという意見かと思うが、これは極めて大事な意見だと思うので、教育委員会から次期の審議会へ引き継いでほしい。

- 委員 バイキング給食だが、児童は楽しみにしていると思う。中学校でもできないものか、と聞いていて思った。

我が子は毎日喜んで、おいしいと言って食べてくるが、さらにお楽しみ給食が中学でも増えれば、中学生でも、食の細い生徒もいるのでより食欲が増すと思った。

- 会長 小学校では幾つかの行事給食を行っているが、中学でも実施できれば生徒も喜ぶであろうという意見だ。委員には、給食主任や栄養士もいるので、工夫の中でできることを考えるきっかけとして、給食運審で意見が出ていることを共有してほしい。

- 委員 バイキング給食を行えば、どこの児童・生徒も大喜びであると思うが、楽しみ以外にも意義があることを伝えたい。1つは食育基本法や健康増進法の中で、大人になったときに自分で量や組み合わせの調整ができるようになることを学べる。与えられた量の食事を食べるだけでなく、能動的に食を営む力、選択する力、を育成することができる機会であると考え、大切なことである。

現状の若い世代の食事行動を見ると、組み合わせの貧しさが問題になる点もあるが、子供も喜ぶし、国も能動的な食事については推奨している。予算の限りもあろうと思うが、積極的に取り組んでほしい。

- 会長 小学校のバイキング給食にも、今の意見にあった目的を掲げて指導を行っているが、中学でも食にまつわる行事を取り組む工夫が大事な点かと思う。これらも、現実的な課題ということで、関係職員が工夫を継続してほしい。

最初からできない点を上げてしまえば、それで終わってしまうと思う。予算も時間もない、手も足りない、と言ってしまえばそれまでだが、少しでも工夫できる点を探そうとする努力をしてもらえれば、ありがたいと思う。

- 委員 栄養士が代わると給食の味が変わるとよく聞くことだが、それぞれの栄養士がレシピを用意しているのであれば、共有化はできないのか。例えば、親子給食に適した献立、子どもに人気の献立を市内の栄養士が互いに取り入れてはどうなのか。

- 委員 長期間での取り組みになるが、毎月担当を決めて、2ヶ月先の献立作成の参考になる資料を用意して発表している。子どもが喜ぶ献立は、共有させている。その中から、西東京スタンダードといっても良いメニューも生まれている。

資料は共有しているが、調理場の条件も違うし、調理員の人数や腕前の差もあるので、レシピが同じでも同じでき上がりにならない場合もある。料理なので、できに差が出ることはあるが、標準化の工夫を栄養士会で行っている。

- 委員 親子給食になって、栄養士や調理員の負担が増えている。もともと献立作成は

大変なところだと思うが、親子でさらに負担が増えていると聞くと、何か改善できる点はないのかと思って発言したことである。

- 会長 栄養士会でも、日々研究はしている。それが子どもにとって良い結果が出るのであれば、採り入れればよいことだ。栄養士ばかりではなく、給食主任も学級担任も、保護者も含めて、子どもの率直な意見を学校に伝えてほしい。

子どもたちの喜びの声を伝えてくれれば、調理する側も励みにすると思う。

- 委員 親子関係の見直しについてだが、毎日1,500食も作る学校があるという事実は、早急に見直した方が良いと思う。中学では自校式がスタートし、小学校では親校にならない学校もあり、その格差は、開くばかりと思う。

- 会長 運審は給食のことを議論し、学校は食育の観点から安全で、より良い給食を提供する役割を担っている。そのために、親子給食という手段を採ってはいるが、目的達成のためには、見直しを行うべき点はあると思う。親子関係も完全ではないと考えながら、見直す点を探りたいと思う。

- 副会長 ひばり中で自校式がスタートすれば、ぜひ検証をすべきという意見が出たが、そこは大切なところだ。施設面ばかりでなく、人件費がどれほど必要になるのか。自校式に変われば栄養士や調理員の配置なども必要だ。必要な予算は何か、ノウハウとしては、どうしたらよい給食が提供できるのか。逆に課題はないのか。実際に行われる現場でのデータを検証することで、次につなげることにするのは大事な点だと思う。

各学校の努力や安全への配慮をしながら配食していることが、運審の議論からも伝わってくると思う。保護者委員からも、多くの意見・提案が出たことは、良い機会を得られたと思う。

学校には「〇〇教育」といわれるものがたくさんある。例えば、道徳、人権もあるが、まずは教科教育、勉強の場なので、最初にあげられるのは学びの内容かと思う。そして今はキャリア教育とか、遵法について学ぶこと、ありとあらゆることを子どもたちは学んでいる。その1つに食育も当然含まれている。食は社会的な背景も含まれており、昨今では貧困の問題にもつながってくる。食べることは生きることであり、学校給食は、子どもに取っても大きな影響がある。同じ食材で作った食事を全員で食べることができる日本の独自のシステムに、税金がどのように使われているのかということを確認しつつ、改めて感謝したい。

この点は、学校も感じ取りながら食育指導を行う必要があると思う。この会議では、給食の夢と希望を語っていく場だとも思うので、この市の学校数や置かれている条件を勘案し、大切な財源問題も加味しながら、どういう給食を目指すべきかということ、色々と意見を出していただいている。私も、勉強させていただいているので、任期末に向かって、より良い答申ができるように努力したい。

- 会長 この議題は終結する。

## 2 その他

- 会長 ほかに意見はないか。

次回の予定を発表してほしい。

- 事務局 次回の日程だが、6月29日の14時30分から田無小のランチルームを確保した。場所の変更はあり得るが、日時は変更せずに行いたい。

閉会

- 会長 本日の会議を散会する。